

東京都江戸東京博物館

令和3～8年度
指定管理者

提案書類（事業計画書）

団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

所在地 千代田区九段北4-1-28

代表者名 日枝 久

目次

課題2 〔管理運営の基本方針〕

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1 管理運営の基本方針と達成目標について | 1 |
| (1) 基本方針と達成目標 | 1 |
| (3) 『未来の東京』戦略ビジョンの実現に向けた取組 | 7 |
| 2 国内外の施設等との連携の取組(ネットワーク化の推進)について | 9 |

課題3 〔事業に関する業務〕

- | | |
|--------------------------|----|
| 3 資料等に関する情報提供について | 11 |
| (1) 情報システム等による情報の提供 | 11 |
| (2) 図書室の運営 | 13 |
| 5 展示及び展覧会について | 14 |
| (1) 魅力的な展示及び展覧会の実施に向けた方針 | 14 |
| (2) 展示及び展覧会の実施体制 | 18 |
| 7 その他の事業について | 19 |
| (1) 専門博物館としての方針と取組 | 19 |
| (2) 大規模改修中の取組 | 20 |
| 8 人材の育成について | 22 |
| 9 館の事業を支える仕組みについて | 23 |
| (1) 広報の充実 | 23 |
| 10 収蔵資料の収集・保管・活用等のあり方 | 25 |

課題6 〔館の管理その他に関する業務〕

- | | |
|---------------|----|
| 1 館の管理について | 27 |
| (1) 施設等の管理業務 | 27 |
| (2) 危機管理体制の整備 | 29 |

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
(1)基本方針と達成目標

1. 基本方針

「生々発展」させゆく《江戸東京の歴史と文化》
— 江戸東京という地域をさらに「深く究明」～ 海外の都市へ江戸東京を「広く発信」—

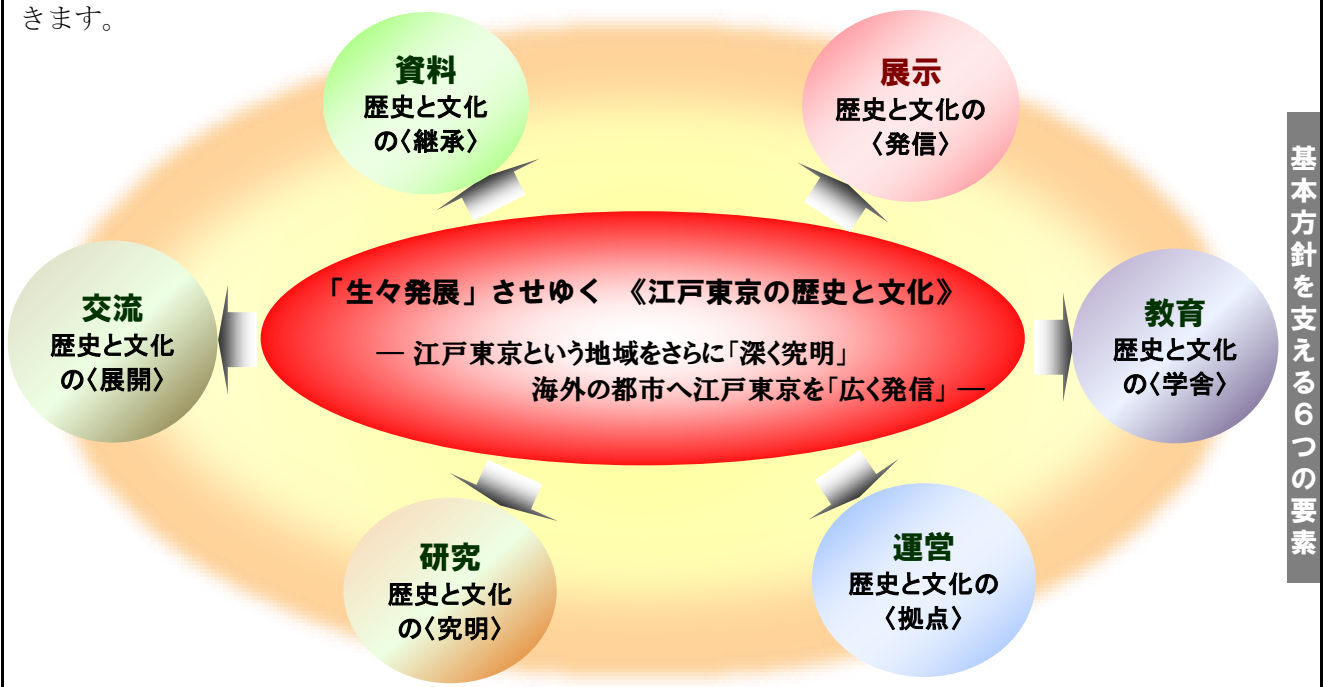
江戸東京博物館・江戸東京たてももの園は、私たちが暮らす東京というこの都市のかけがえのない「江戸東京の歴史と文化」について、ますます掘り下げて「深く究明」と同時に、その成果を世界の都市へと「広く発信」し、首都東京の誇る固有性をていねいに紹介すべく、令和3年(2021)以降は、より一層、外へと眼を向けていきます。わが国が成熟社会へと化したいま、次期指定管理期間においては「地域へ深く」、そして「世界へ広く」を理念の根幹とし、国内はもとより、異文化間の友好と相互理解に貢献できる都市博物館を目指してまいります。

平成5年(1993)の開業以来、来訪者の総数は実に4千400万人——これまで27年間にわたり営々と活動を続けてきた江戸東京博物館・江戸東京たてももの園は、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の開催を大きな契機として、以後、その貴重なレガシーを引っ下げ、新たな時代にふさわしい《江戸東京の歴史と文化》を創出しつつ、わが国首都の博物館として未来に向かって生々発展させていきます。

そのため最新の学術的知見をふまえ、館事業の理論的支柱である「江戸東京学」の再編を念頭に、調査研究をさらに促進させます。61万点にのぼる「江戸博コレクション」から、歴史と文化をテーマに優品を精選のうえ展覧会などを企画し、たとえばパリ・ロンドン・ベルリン・カイロ・北京・ソウルその他、東京都の姉妹友好都市、あるいは海外の主要都市に所在する博物館・美術館に巡回します。あわせて、現代美術館・写真美術館・庭園美術館・江戸東京博物館の4館の多彩な所蔵品を「東京都コレクション」と捉え、「財団連携」として、同様に展覧会などを企画し、戦略的、かつ積極的に展開します。

さて、グローバルゼーションといわれる現代は「人、物、そして情報」が時間と空間をたやすく超えて地球規模で行き交います。異文化交流が盛んになると、互いに触発され、活性化し、融合のうへ発展へと繋がる一方、みずから培ってきた文化との摩擦や対立が生じることさえあります。その克服は都市の大きな課題といえます。

ここで重要なことは、私たちの暮らしがどのように変化したのか、あるいは変化しなかったのか。「異文化交流」にともなう「変容のプロセス」を明確にし、意識下に置くことではないでしょうか。そのようなプロセスについて調査研究を促進し、その成果を展示をはじめ、さまざまな質の高い事業を行うことによって適切に提示する。そして都民が把握できる一助とする。それは都市博物館の大切な機能の一つでもあります。国内外の都市博物館どうしの連携を深め、人びとが抱える社会的課題に向かってともに対応していきます。



事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
----------	-----------------

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について

(1)基本方針と達成目標

令和5年より「**大規模改修工事**」を予定している江戸東京博物館では、次期指定管理期間においては、それを前提として以下の3つのステップをふまえて計画的に業務を推進してまいります。とりわけ工事にとまなう全館休館中には、小中高生、団体客、家族連れ、若者層、外国人やその他の江戸博ファンに対し、工事後、リニューアルへの期待を醸成するよう、江戸東京たてもの園の特別展示室において、本館常設展のサテライト展として代替機能を果たします。

工事前 令和4年(2022)～



- ア. 工事の準備。
- イ. **外部収蔵庫へすべてのコレクションを移動**

- ウ. 休館中、開館再開後の特別展、その他の事業の開催準備
- エ. **海外の姉妹友好都市の博物館への交流展の準備。**

工事中 令和5年(2023)～



- ア. **図書室は仮事務所でも運営し都民が閲覧できる** ようにする。
- イ. **移動博物館**を設置。独自プログラムを作成のうえ、奥多摩、島嶼部、都内の小中学校、高校・専門学校、高齢者介護施設、フリースクールを訪問。

- ウ. 常設展の改善を実施
- エ. 特別展、その他の事業の開催準備
- オ. **海外の姉妹友好都市の博物館への交流展**を実施
- カ. **資料のデータベースを構築。調査研究しウェブ公開を図る。**
- キ. 分館において**常設展サテライト展**を実施する。

工事後 令和8年(2026)～ **再開**

(1) 資料：歴史と文化の<継承>

★財団重点目標 1 最先端技術を活用した発信

① 61万点の館蔵資料「**江戸博コレクション**」を都民のかけがえのない文化遺産として、これまでに培ってきた収集、整理、保存、復元・修復など、独自のノウハウをもとに、未来へと継承すべく大切に保管します。**資料作品データベース**を構築し世界へ向けて発信します。

【評価指標の例】

デジタルアーカイブの資料点数

② 江戸東京たてもの園の**収蔵建造物30棟を適切に保存**するとともに、計画的な修復を行います。

【前半3年間の実績】

本館では、収蔵資料の全件公開に向けて、デジタルアーカイブスを充実させるため、資料データの整備を促進し公開しています。また、資料を活用した発信としてスマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」をリリースしました。

(デジタルアーカイブスの公開画像点数) 令和3年度:15,783点、令和4年度:11,210点)

分館では、奄美の高倉、丸二商店、常盤台写真場、上村邸、(以上、令和3年度)、鍵屋、花市生花店、村上精華堂、万世橋交番(以上令和4年度)、旧光華殿(令和5年度)などの修復を確実に実行しました。

【後半3年間の見通し】

本館では、デジタルアーカイブスについて令和5～7年度の3年間で毎年10万点、計30万点のデータ公開を予定しています。また、「ハイパー江戸博」はコンテンツテーマを設定して毎年度制作していきます。

分館では計画に則り、三井八郎右衛門邸、デ・ラランデ邸、武居三省堂、小寺醤油店、仕立屋、川野商店、八王子千人同心組頭の家、伊達家の門などの修復を行ってまいります。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について (1)基本方針と達成目標

(2) 展示：歴史と文化の〈発信〉

- ① 展示環境の改善については、常設展復旧工事を契機にさらに追求し、また体験型資料などの模型も増設します。
- ② 「江戸博コレクション」を活用した展示替えを確実に行うとともに、ホームページなどで公開のうえ国内外の来館者を誘致します。
- ③ 都市史を主題とした博物館であることの意味を再認識し、自主事業として質が高く魅力あふれ、江戸東京博物館の設立趣旨にふさわしい展覧会を開催します。
- ④ 江戸東京たてもの園においては、園全体の情景再現を本格的に行い、歴史的景観を整備します。

【評価指標の例】

前半3年間 観覧者数 基準値 165万人(本館常設展：90万人、同特別展：50万人、分館：25万人)
後半3年間 観覧者数 基準値 175万人(本館常設展：100万人、同特別展：50万人、分館：25万人)

【前半3年間の実績】

令和3年度は本館、分館共に新型コロナウイルス感染症拡大防止を最優先に常設展示、特別展示を運営いたしました。令和4年度に休館した本館では展示資料、模型等を撤収し、国内外で特別展示を実施しました。令和5年度は都内の施設で特別展示を実施するとともに、魅力向上の方策を検討いたしました。分館では没入感のある情景再現展示を継続しました。

【後半3年間の見通し】

本館常設展示は令和7年度の再開館へ向け展示改修を確実に実施し、新たな魅力を発信してまいります。令和8年度より再開する特別展示は当館らしいテーマと質の事業を実施いたします。分館では引き続き情景再現の充実を図ってまいります。

(3) 教育：歴史と文化の〈学舎〉

★財団重点目標 3「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」に取組む

- ① 常設展示を活用した教育普及事業について、これまでの一般来館者向け事業を継続発展させていくと共に、対象者ごとにきめ細かく、利用者にさらに寄り添いつつ、以下のとおり展開します。

ア. 子供：学校との協働。社会科見学、修学旅行、平和学習、環境学習(江戸のエコロジー)などの独自プログラムを開発し、学校団体の利用を促進します。また特別支援学級など様々な教育機関との連携を促進します。

イ. 高齢者：介護施設との協働。かつて江戸東京博物館で実施した「高齢者げんきプロジェクト」(平成16～18年度)をバージョンアップします。

また、高齢者の利用の便をさらに向上するため、1階と5階に設置されている救護室を改善します。

ウ. 外国人：多言語化を促進するとともに、外国人を対象とした事業を実施。海外からの来館者を誘致します。

エ. 障害者：福祉施設との協働。本館・分館への福祉車両などによるアクセスをより容易にします。

【評価指標の例】

プログラムの参加者数、満足度

- ② 江戸東京たてもの園においては、すでに多岐にわたる教育普及事業については実施していますが、来園者から好評を得ている「昔くらし体験」をさらに拡充し、とくに外国人の参加を促進します。あわせて伝統技術を保持する職人による実演も充実させます。

③ 館員の調査研究の成果を都民に還元すべく、毎年、多彩でオリジナルな内容の「えどはくカルチャー」を開催します。

④ 「出会い・学び・楽しめる」博物館として、図書室が「江戸東京の知の総合窓口」から「専門図書館」にいたるまでの幅広い機能を持ち、都民の生涯学習・文化活動を支えます。

【前半3年間の実績】

本館では、子供から大人だけでなく障害者、高齢者までの幅広い層に江戸東京の歴史と文化を学べる環境を提供しています。(プログラムの参加者数、満足度)令和3年度：本館開館中はミュージアムトークなど86回、8,237人。えどはくカルチャーは45回、4203人。令和4年度：本館休館中は館外にて、移動博物館を38回、830人。えどはくカルチャーは12回、1,112人

大規模改修工事中の「えどはくカルチャー」は、財団内のたてもの園や東京都美術館に加え、調査研究の成果を都民に幅広く還元すべく、都内文化施設の自由学園明日館や日比谷図書文化館で実施しました。

分館の「昔くらし体験」、伝統工芸の実演(毎月第2土日)は、これまでも人気を博してきました。特に「昔くらし体験」の外国人バージョンは、コロナ対応のため一時中止期間もありましたが、人気企画として定着しました。

【後半3年間の見通し】

本館では、引き続き移動博物館(出張ワークショップ、出張展示)、財団内の施設や都内の様々な文化施設でえどはくカルチャーを実施していきます。分館では、人気プログラムとして確立した事業を一層充実させていきます。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について (1)基本方針と達成目標

(4) 運営：歴史と文化の<拠点>

- ① これまでの「3S方針」(Safety:安全・安心, Service:おもてなし, Sence of Wonder:感動する博物館)を堅持するとともに、来館者・博物館資料・館スタッフの安全確保を運営の第一とします。
- ② 「危機管理」については最優先の課題として全館を挙げて取り組みます。とりわけ「あらゆる事故の防止」「個人情報の保護」「テロ防止」などには細心の注意を払います。
- ③ ミュージアムショップやレストラン、その他、あらゆるミュージアム・シーンにおいて、来館者の心に残るような行き届いたサービスを提供します。ボランティアを含む館スタッフ全員が「顧客満足度調査」の結果を認識して仕事にあたり、ホスピタリティの向上を徹底します。
- ④ 「江戸東京の歴史と文化」を発信するため、事業ごとに綿密な広報宣伝を展開する一方、ウェブサイトや各種媒体を効果的に用い、またメディアとも提携しつつ国内外に幅広く情報を提供します。

【前半3年間の実績】

本館分館ともに3S方針を徹底するため、運営にあたって警備・受付・設備と、課題意識を共有し、つねに責任感を共有して一体となった施設運営を行ってきました。新型コロナウイルス蔓延の影響により臨時休館、休園を余儀なくされましたが、全体を含めて大きな事故などなく、適切な運営を実現いたしました。

【後半3年間の見通し】

分館では引き続き運営にあたる警備・設備・受付の各スタッフと密接にコミュニケーションをはかり、一体となって園の運営にあたる体制を維持し、安心・安全の運営を続けていきます。本館では、リニューアル後も適切な館運営ができるよう準備を進めていきます。

(5) 研究：歴史と文化の<究明>

★財団重点目標 1 最先端技術を活用した発信

- ① 江戸東京学の研究センターとして、これまでも増して「江戸東京の歴史と文化」をテーマとする調査研究を推進するとともに、その成果については、展示をはじめ、館・園のさまざまな事業に反映させ、都民へ還元します。
- ② 国内外の博物館をはじめとする関係機関と比較都市論をテーマとした共同研究を積極的に展開。ワールドワイドな視点をもって江戸東京学を究明します。その成果をもって、館・園の事業をさらに多彩にいたします。
- ③ 復元建造物のデータベースを構築し、園の展示、解説、公式図録などを充実させるとともに、これを用いた研究により、建築の専門博物館としてふさわしい展覧会などを開催します。

【評価指標の例】

復元建造物のデータベースのアクセス数

- ④ 武蔵野郷土館から引き継いだ2万点の資料を活用した地域研究を進めるとともに、多摩地域唯一の都立文化施設として、失われつつある地域の有形無形の文化資源の調査研究を進めます。

【前半3年間の実績】

本館では、紀要、史料叢書の発行などを通して、調査研究の成果を広く都民に還元しています。

当館及び財団学芸員・司書並びに外部研究者との研究の成果として「紀要」「史料叢書」を刊行し、「江戸東京の歴史と文化」についての調査研究を推進しました。

分館では、復元建造物のデータベース構築については、データベースに掲載する復元建造物についての基本資料の整理などを実施し、データベース構築のための準備をおこないました。

【後半3年間の見通し】

本館では、「紀要」「史料叢書」の刊行を継続してまいります。

分館では、整備した復元建造物に関する画像データ・テキストデータを順次構築していきます。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

**提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
(1)基本方針と達成目標**

(6) 交流：歴史と文化の<展開>

★財団重点目標 2 間口を広げ、主体的に関わる仕組みづくり

- ① 東アジアの首都に所在する博物館、すなわち**北京首都博物館、ソウル歴史博物館、瀋陽故宮博物館**とは、国際シンポジウム、学芸員の相互派遣、交流展の開催などを実施してきましたが、これまでの実績をふまえ、引き続き交流を促進します。
- ② 東京都の姉妹友好都市のみならず、**世界の主要都市に所在する博物館において**、「江戸東京の歴史と文化の発信」をテーマに**国際交流展**の開催を目指します。そのため「**国際博物館会議(ICOM)**」を**国際交流の場**に位置づけるとともに、**ICOMの国際委員会のCAMOC(都市博物館のコレクション・活動国際委員会)**に積極的に参加し、所属する各国の博物館と交流を推し進め、江戸東京博物館のプレゼンスを高めていきます。
- ③ すみだ北斎美術館、刀剣博物館、たばこと塩の博物館をはじめとする文化施設、地元・墨田区や周辺区、関連機関との地域連携を図り、江戸東京博物館を両国地域における文化発信の拠点とします。
- ④ 江戸東京博物館が20年近く取り組んできた地域連携である「**両国協力会**」については事業のスクラップアンドビルドを重ねて、引き続き地域振興に貢献します。
- ⑤ 多摩地域における唯一の都立文化施設である江戸東京たてもの園の収蔵建造物や、情景再現の魅力をより一層高め、地元・小金井市や周辺市、スタジオジブリ、をはじめ、JR、大学、商工会などと協力し、多摩の文化的魅力の向上に貢献します。とりわけ、江戸東京たてもの園の人気を三大催事、すなわち「**下町夕涼み**」(夏)、「**紅葉とたてものライトアップ**」(秋)、「**たてもの園フェスティバル**」(春)は、他機関との協力を深め、多摩地域の文化振興の拠点を形成して行きます。
- ⑥ 都民の文化活動に寄与するため、ボランティアや友の会などへ活動の場を提供し、江戸東京博物館・江戸東京たてもの園における「**交流**」事業に参画してもらいます。

【評価指標の例】

事業の参加者数、満足度、国際交流展の開催、国際会議への参加

【前半3年間の実績】

本館では、アジアや欧米の博物館・美術館との交流、展覧会などの事業を実施しています。令和4年度にはパリとソウルで国際交流展を実施しました。博物館ボランティア活動については、コロナ感染拡大防止のため、休止しました。また、本館では大規模改修工事に伴い令和4年3月末をもってボランティア活動を終了し、分館では活動再開に向けて活動内容を見直しています。

平成14年から、毎年持ち回りで開催しております「**日中韓国際シンポジウム**」は、令和3年はコロナ禍のため中止となりましたが、令和4年はソウル歴史博物館で開催され、当館の職員が研究発表を行いました。令和3年はICOMの国際委員会の分科会であるCAMOCの年次大会がバルセロナで開催され、当館の職員がオンラインで発表を行いました。令和4年に開催されたICOMプラハ大会にもオンラインで参加いたしました。

分館の情景再現事業のなかでも特に人気の「**下町夕涼み**」「**紅葉とたてものライトアップ**」「**たてもの園フェスティバル**」は、小金井商工会と緊密に連携して実施し、来園者にも人気を博しています。ボランティア・友の会へ活動の場を提供し、より活発な活動ができるように支援してまいりました。

【後半3年間の見通し】

本館では、引き続き交流等を促進していくとともに、江戸博ボランティアについては、これまで以上にホスピタリティマインドの精神に沿ったお客様サポートを目指すため、新たな活動としていきます。

令和8年の「**日中韓国際シンポジウム**」は、江戸東京博物館で開催する予定です。

分館のボランティア制度については、より多くの市民が参画できるように新たに養成型のボランティア制度を導入してまいります。

2. 目標の設定

本館・分館それぞれに「**外部評価委員制度**」を取り入れ、PDCAサイクルを活用した約50にのぼる評価項目について外部の有識者により評価していただいています。その評価システムは、①自己評価、②外部評価、③財団本部の全体総括で、この結果を東京都に報告し、東京都による「**指定管理者管理運営状況評価**」が実施されます。

事業の「**質の向上**」を目指すため、それぞれの事業に定性目標を設定します。今後は、とくに以下の**10項目を重点**におき、江戸東京博物館・江戸東京たてもの園にふさわしい事業を執り行ってまいります。

- ① 入場者数
- ② 快適な展示環境の確保 (多言語化をふくむ)
- ③ 業務執行にかかわる収支
- ④ 社会的意義の有無
- ⑤ 江戸博ミッションの適合
- ⑥ 企画内容のオリジナリティ・進取性
- ⑦ メディアの反響 (SNSをふくむ)
- ⑧ 学術性
- ⑨ 親和性・エンタテインメント性の有無
- ⑩ 他機関との連携

定量目標のほか、とりわけ定性目標を明確にし重視するとともに、都立文化施設として「質の高い事業」の実施に取り組むことを約束します。

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

**提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
(1)基本方針と達成目標**

財団では、若年層を対象とし、プロモーション企画やプレゼント等の実施とともに、展覧会への無料招待を行うことにより、若年層が自らの意思で芸術文化に直に触れ、多彩な魅力を感じることで、文化に親しむきっかけづくりを創出し、将来の観客層を育むWelcome Youthに取り組んできました。

ホール2館の公演も対象にする等、Welcome Youthの取組の更なる鑑賞機会とともに、若年層向けの広報及びプロモーションの拡充を図ってまいります。

現在、常設展※の入場料を都内中学生のみ無料としている館については、全ての中学生が無料で観覧できるよう料金体系を見直すほか、都立文化施設の子供・若者の料金体系のあり方について検討を進めてまいります。

※東京都写真美術館の収蔵展及び映像展、東京都庭園美術館の建物公開展及び庭園を含む。

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標
(3)『未来の東京』戦略ビジョンの実現に向けた取組

1. 実施方針

『未来の東京』戦略ビジョンに従い、当館が有する「人・もの・場」を最大限に活用します。

(参考)『未来の東京』戦略ビジョン 戦略15 文化エンターテインメント都市戦略

世界から多くの観光客が訪れる東京2020大会を跳躍台とし、芸術文化やエンターテインメントなど都が持つ魅力的な資源を磨き上げるとともに、誰もがストレスなく楽しめる環境を整備し、東京と全国各地域が広域的かつ有機的に連携することで、何度でも訪れたい都市へと進化させる。

- ・芸術文化やエンターテインメントを存分に楽しめるまちをつくる
- ・旅行者が楽しめる、魅力的なコンテンツを磨き上げる
- ・世界を視野に、オールジャパンでプロモーションを展開する

2. 具体的な取組

【戦略15】アートショーケースTOKYOプロジェクト

○都を中心に、区市町村、芸術系大学、民間企業、NPO等の様々な主体とのネットワークを強化し、東京2020大会の文化レガシーを継承しながら、都立文化施設をコアとして芸術文化振興を更に推進するとともに、地域の個性や資源なども活かした多種多様なアートがまちの至る所に溢れる都市を実現

財団では、東京の芸術文化やエンターテインメントなど多様な魅力の集積を世界に発信するとともに、新たな賑わいをつくっていくため、国や民間とのネットワーク強化の中核的役割を果たしていくことを掲げています。

江戸東京博物館では都立文化施設が中心となって都内の様々な地域を繋げ、海外から訪れる観光客にも魅力ある、多様な芸術が溢れる都市の実現に向けた事業を展開してまいります。

- 常設展示室内中村座前で開催する「えどはく寄席」に新進気鋭の演者を招聘、インターネット上映などで「新しい伝統文化」を国内外にも発信、東京発の芸術文化の発展に貢献します。
- アーツカウンシル東京と連携して実施する「外国人向け伝統文化体験プログラム」に伝統工芸品の製作体験などを加え、江戸東京の手仕事文化の素晴らしさを世界に広め、担い手の保護・育成に努めていきます。
- 「えどはく寄席」の小中学生向け公演「伝統芸能ウィーク」では、若手の演者を積極的に登用、レクチャー性を高めた講演を実施してもらうことで、伝統芸能の継承者の裾野を広げていきます。
- ホールにおける能や狂言、琴、長唄、日本舞踊、箏曲、落語などの発信を通じ、「江戸博ホール」の存在感を高め、伝統芸能の地位向上に貢献します。
- ボランティアによる伝統文化を体験するワークショップ「ふれあい体験教室」は、教育普及担当学芸員が積極的に運営を支援し、都民が自ら「学び、伝える」機会を提供します。
- 「江戸博コレクション」を熟知した学芸員により、「見る、聞く、触る」ことのできるワークショップを実施、より深い鑑賞体験を提供し、文化財の魅力を向上させ、その保護の重要性をご理解いただきます。
- 「江戸博コレクション」をパッケージにした展覧会を欧米の博物館等に巡回、江戸東京の魅力を世界に発信していきます。
- 分館の江戸東京たてもの園では、国内有数の野外建築博物館として、歴史的建造物等に関する教育普及やにぎわいのイベントを実施、インパウンドによる東京のシティセールスと多摩地域の産業振興に貢献していきます。
- 分館では、主たる対象である歴史的建造物の更なる復元・保存を進め、貴重な文化遺産を継承するとともに、江戸東京の建造物と生活に関する調査研究を推進、その成果をウェブサイトでわかりやすい形で公開し、ファンの裾野を広げていきます。
- 分館における外国人向け生活文化体験、MUKASHI-KURASHI(昔くらし)のプログラムを充実させ、本館とは異なる歴史的な生活空間の追体験を通じた、江戸東京文化のより深い理解を促します。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標

(3)『未来の東京』戦略ビジョンの実現に向けた取組

【戦略15】アートショーケースTOKYOプロジェクト

○最先端技術の活用により、文化施設に来場困難な方も含め、国籍や障害の有無、年齢に関わらず、誰もが、いつでも、どこでも芸術文化を楽しめる環境を整備

財団では、AI、ICTなどの最先端技術を活用し、東京を訪れる誰もがストレスなく楽しめる環境整備を徹底し、東京ならではの「特別な体験」等を提供することで、世界中に東京のファンを増やしていくことを目指しています。

江戸東京博物館では、多様な対象に向けた教育普及事業を実施してまいりました。今後は、更に5Gを活用したタブレット等の端末向けの配信等、道を行く様々な人々、博物館に足を運ばない人々等、誰にでも文化芸術を届ける取り組みを行います。

- 常設展示において、VR・AR等の最新技術を活用し、江戸城や江戸・明治・大正・昭和の街並み等の再現を行い、体感性・エンターテインメント性の一層の向上を図ります。
- タブレット端末や、多言語対応した音声ガイドを活用した展示情報を継続的に発展させ、誰もが快適に鑑賞できる展示環境を整備していきます。
- 50万点を超える国内有数の収蔵資料を一層充実させ、これらをインターネット上の「Tokyo Museum Collection」に公開し、全世界からコレクションにアクセスすることを可能にします。江戸時代の浮世絵をはじめ、著作権保護期間の切れた数万点のデータを自由に利用できるようにし、内外の研究者の利用や、アーティストの創作の素材に提供します。
- たてもの園では、スマートフォンアプリなど簡易な方法で、30棟の野外収蔵建造物に多面的にアクセスできるツールを導入し、遠隔地から江戸東京の歴史的生活空間に没入できる環境を整備します。

○才能のあるアーティストを発掘・育成、国内外での活躍を支援し、東京発のアーティストとその作品の国際的評価を高めていくとともに、文化の担い手の裾野を広げていくため、NPOや文化団体等との連携を強化

財団では、才能のあるアーティストを発掘・育成、国内外での活躍を支援し、東京発のアーティストの国際的評価を高めていく取組を推進し、東京のプレステージを高めていくことを目標としています。

江戸東京博物館では長年培った様々な団体とのネットワークを活用し、更なる国際的な活躍の機会の創出に取り組み、東京発のアーティストの国際的評価を高めることに貢献いたします。

- 博物館という特色のある施設を「和の空間」として伝統芸能伝承団体などへ提供し、活動の機会や幅を広げるための支援を行います。
- 大ホール、小ホールでの伝統芸能公演において、さまざまな団体と連携、活動機会の確保に貢献します。

○アートのカや都立文化施設の資源を活用し、高齢化や共生社会など、東京の社会課題の解決に取り組み、日本のリーディングケースとしていく

財団は、「『未来の東京』戦略ビジョン」の重要な施策として、芸術文化の力で高齢化や共生社会など、東京の社会課題の解決に貢献する「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」に取り組めます。都立の美術館・博物館、ホール等がこうしたテーマに一体となって行う事業はこれまでになく、文化施設の新たな役割として日本のリーディングケースにしていきます。

江戸東京博物館は、「創造発信の拠点」であると同時に、「人材育成・教育普及と社会包摂の拠点」として、博物館におけるリーディングケースとなるような取り組みを充実させ、貢献していきたいと考えています。

- クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーの取組として、施設や設備、サービスのユニバーサル化を推進するとともに、事業面では学校や福祉施設、民間団体等と連携し、アウトリーチ活動や高齢者向けプロジェクトを展開、江戸東京の歴史に育まれた豊かな文化資源に、誰もがアクセスできるような環境を整備していきます。
- 分館のたてもの園は、建築と生活文化の専門博物館として上記に取り組むとともに、多摩地域における唯一の都立文化施設として、江戸や区部とは異なる歴史と文化を有する多摩地域の姿を博物館活動を通じて明らかにし、地域のコミュニティの深化と発展に貢献していきます。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 2 国内外の施設等との連携の取組(ネットワーク化の推進)について

1. 連携の考え方

江戸東京博物館はいまでもなく東京都立の博物館であります。しかしながら、日本の「首都東京」が設置する博物館という固有の性格と意義を有しているため、単に一つの地方自治体の設置する博物館というだけにとどまらず、国内においては府県・区市町村立博物館をはじめ、国の博物館、さらには世界の都市博物館との有機的な繋がりを必然的にもつ、**きわめてユニークな位置**にあります。それが私たちの博物館の特徴を形づくっています。いわば首都の博物館として、国内外を問わず緊密なネットワークを形成のうえ交流することは当館の責務といえ、またそのような役割を果たすことこそが使命の一つと認識しています。そのため、以下のとおり、**国内外の博物館と緊密に協力し合い、多種多様な「連携事業」を繰り広げます。**

2. 具体的な取組

(1) 海外：海外の主要都市（東京都姉妹友好都市）の博物館との連携

- ① **アジア……北京首都博物館・ソウル歴史博物館・瀋陽故宮博物館**とは、これまで約20年間にわたる国際的な交流を深め、毎年、3カ国4館が輪番で博物館活動に関する国際シンポジウムを開催してきました。また、学芸員の相互派遣、共同研究を実施してきました。その成果として平成29年と30年、江戸東京博物館と北京首都博物館のそれぞれで、18世紀の両都市とその暮らしをテーマにした「交流展」を実現することができました。またソウル歴史博物館とは、ソウルのコレクションを活用した企画展「18世紀ソウルの日常—ユマンジュ日記の世界」を、令和元年、江戸東京博物館で開催しました。令和2年度には江戸博コレクションを活用した特別展をソウル歴史博物館で開催する計画です。お互いのコレクションの名品をもちよった展覧会をとおして、さらに国際交流を深めてまいります。
- ② **欧米主要博物館**とは、これまでにも多くの展覧会の資料・作品の貸借やシンポジウムをとおして連携を深めてきました。今後は**東京都の姉妹友好都市を中心に世界主要都市の博物館**と対等な関係で都市どうしの交流展を実施します。
- ③そのため、世界の博物館の国際機関である「ICOM（国際博物館会議）（本部パリ）」を主舞台に活動の場を広げます。「江戸東京の歴史と文化」を発信することによって、各都市との友好と相互理解に貢献してまいります。

(2) 国内：全国の歴史民俗系博物館との連携

- ④ **東日本大震災による文化施設の災禍を契機として**、平成23年、「**全国歴史民俗系博物館協議会**」という歴史系、民俗系の博物館の全国組織が発足しました。これは、**江戸東京博物館と国立歴史民俗博物館**が呼びかけ館（両館は事務局館）となり、国立および都道府県や区市町村の自治体（民間も含む）が設置した博物館の有志と総意のもとに実現したものです。加盟館は819館にのぼります（令和2年3月31日現在）。当初は、主として博物館における危機管理からスタートしましたが、いまでは博物館の運営をはじめ、展示、資料管理、資料保存、資料貸借、学芸員の研修や研究成果の発表など、多岐にわたるテーマで交流を重ね、順調に発展しています。江戸東京博物館は、今後ともこのなかでハブ機能の役割を担い、**全国的規模で博物館相互の連携**を推進します。
- ⑤ **両国地域ネットワーク**
近隣の**すみだ北斎美術館、刀剣博物館、相撲博物館、たばこと塩の博物館**などと連携し、墨田区や台東区における文化施設の回遊性を確保します。都内屈指の観光施設である**浅草寺やスカイツリー**なども視野に入れ、文化事業の提携のみならず、たとえば大型バスの駐車場の供与ほか、さまざまな協力を推進します。墨田区文化施設間の連携や両国協力会で、引き続き、地域連携を進めてまいります。
- ⑥ **多摩地域ネットワーク**
郷土芸能、魅力的な都市公園、芸術系大学などが集まる「多摩地域」に存在する唯一の都立文化施設として、分館は近隣文化施設や地域との連携により、多摩の活性化に寄与します。大学をはじめ、「三多摩博物館連絡協議会」に積極的に関与し、文化施設の連携を図ります。また旧武蔵野郷土館資料を基盤とする地域研究を推進し、多摩地域の自治体や文化団体と、文化資源の継承を核とした連携を進めます。小金井市等との連携、三多摩博物館連絡協議会への参画等により、引き続き、地域連携を進めてまいります。また主催イベントの開催に際して地域飲食店と提携を推進してまいりましたが、今後も引き続き地域振興に寄与してまいります。
- ⑦ **財団内**
さまざまな個性を有する美術館・ホールの運営実績を有する財団のスケールメリットを生かし、収蔵品の相互活用や、演奏やパフォーマンスの活動場所の提供、共通広報などにより、都立文化施設の全体としての向上を図ります。



事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 2 国内外の施設等との連携の取組(ネットワーク化の推進)について		
連携	連携の取組	展開例
海外	アジア主要都市の博物館	北京首都博物館・ソウル歴史博物館・瀋陽故宮博物館と3カ国4館で輪番による国際シンポジウム、学芸員の相互派遣などを継続し、交流展を開催します。その際は「対等な関係」を基本とします。「文化の力」をもって市民どうしの相互理解と友好を促進します。
	欧米主要都市の博物館	欧米における東京都の友好都市の博物館を中心に「江戸博コレクション」による展覧会を開催し、「江戸東京の歴史と文化」を発信します。その際は「対等な関係」を基本とします。文化の力をもって市民どうしの相互理解と友好を促進します。
	国際機関への加盟と活動	「国際博物館会議(ICOM)」に加盟のうえ、主要分科会である「都市博物館部会」(CAMOC)に積極的に参画し、そこを舞台に世界各国の都市博物館と国際交流を行いつつ、その成果をさまざまな文化事業に反映させます。
国内	全国の博物館との連携	「全国歴史民俗系博物館協議会」(加盟819館)の事務局館として、国立・都道府県立・区市町村立・私立の歴史民俗系博物館で構成する協議会の中心的役割を担い、博物館運営・危機管理・文化財レスキュー、資料保存管理、展覧会巡回、その他、学芸員の研究成果の発表や研修などで連携し、わが国の博物館のボトムアップを図ります。
都内近県	関東及び東京都内の博物館との連携	「全国歴史民俗系博物館協議会」の9つのブロックのうちの一つ、「関東ブロック」において、上欄の連携に基づく博物館活動を日常的に行ってまいります。また東京都博物館協議会に参画し、多摩・島嶼部を含む都域全般における博物館運営の活性化に貢献してまいります。
地域	両国地域を中心とした経済波及効果	新型コロナウイルスによる経済的損失は、はかりしれないものがあります。しかしながら江戸東京博物館の位置する東京の下町には、「江戸前の食」(和食という世界遺産)をはじめ、隅田川の景観や浅草寺に代表される観光資源に恵まれ、墨田・台東一帯は江戸情緒に満ちあふれています。下町の文化施設を結集するとともに、「見る」「歩く」「食べる」を基本に据えた観光の原点に立ち返り、国内外の人びとを大いに誘致することによって、地域の経済効果の向上に寄与していきます。
	多摩地域における文化施設のネットワークの形成と連携	郷土芸能、魅力的な都市公園、芸術大学などが集まる多摩地域に存在する唯一の都立文化施設として、近隣の文化施設や地域との連携により、多摩地域の活性化に寄与します。多摩地域にキャンパスを有する大学と連携し、学生が博物館活動を通して地域貢献できる仕組みを作ります。また、「三多摩博物館連絡協議会」に積極的に関与し多摩地域の文化施設の連携を図るとともに、多摩地域の文化施設の連携を図ります。各施設の回遊性を高める取組を推進するとともに、広報や危機管理の分野で協力します。
財団内	都立美術館との連携	東京都歴史文化財団のスケールメリットを余すところなく活かし総合力を発揮します。東京都美術館、東京都庭園美術館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、そして江戸東京博物館が所蔵する豊富で多彩な作品・資料群「東京都コレクション」を活用した展覧会をはじめ、多彩な文化事業を開催してまいります。
	都立文化施設全体の連携	美術館との連携に加え、東京文化会館や東京芸術劇場、アーツカウンシル東京などで実施する公演事業の実施について、分野を横断する芸術文化の発信に貢献します。このほか、都立文化施設全体の発信力強化のための連携事業や共通広報にも寄与します。
事業者名・団体名		公益財団法人東京都歴史文化財団

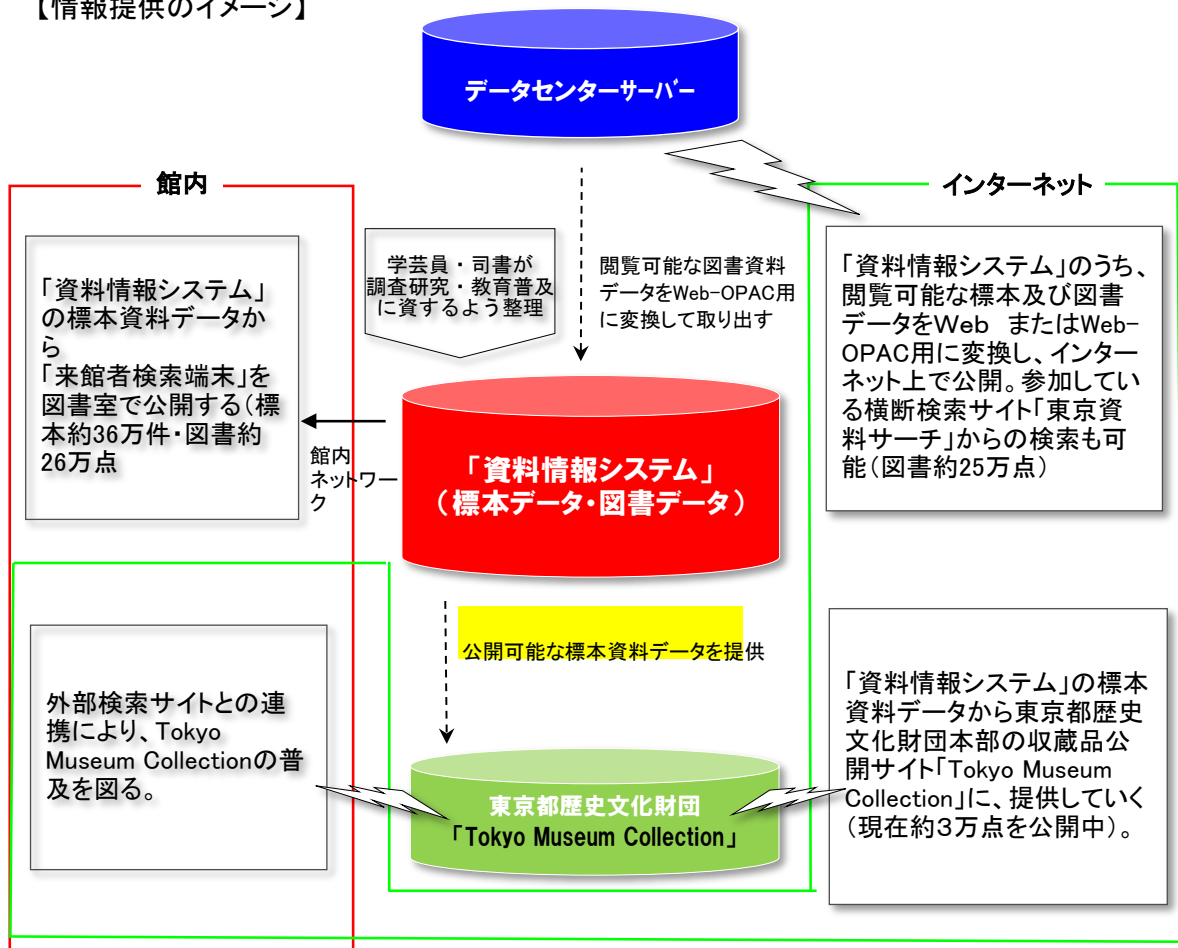
提案課題3 [事業に関する業務] 3 資料等に関する情報提供について
(1) 情報システム等による情報の提供

1. 実施方針

当館には、約36万点の標本・映像資料と25万点の図書資料が収蔵されております。すべての資料は「資料情報システム」で基本情報を記録し、データベース上で展示、貸出、閲覧、修復、燻蒸等の入出庫管理を行うとともに、写真原版の有無や状態等の情報を付加しております。

当館では平成30年度・平成31年度と2か年に渡り、システムの改修を進めてきました。システムはパッケージソフト導入による経費の節減、Web公開機能の充実を目指して改修を進めています。収蔵資料に関する情報を博物館事業の充実と普及のために活用しています。記録情報を、学芸員・司書が自らの専門領域ごとに、調査研究・教育普及に資するように整理、入力し、館内およびWeb上で公開して、「江戸博コレクション」を通じた江戸東京文化の価値を広く発信していきます。

【情報提供のイメージ】



事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
----------	-----------------

提案課題3 [事業に関する業務] 3 資料等に関する情報提供について
(1) 情報システム等による情報の提供

2. 資料のWeb公開の具体的な方法

(1) 基本的な考え方

- ①コレクション情報を画像付きで公開します。
 ※パブリックドメイン(PD)以外は、著作権者に告知のうえ、サムネイル画像で公開
 ※人権問題、個人情報等を含む資料を除く
- ②公開画像のうちPDは、すべて無償で提供します。
 ※(クリエイティブ・コモンズ表記等により、公開規定を制定)

(2) 資料情報の整備

- ①資料情報を整備します。
 資料名・作者・発行者・制作年代・分類・寸法・点数など、公開する情報を確認します。
- ②資料名・作者などを英訳します。
- ③公開用画像データを整備します。
 写真撮影を行います。
- ④資料情報を資料情報システムに入力します。
- ⑤公開基準を策定します。
 人権、個人情報、著作権法などの観点から、公開に適した基準を策定します。
- ⑥公開の可否を確認します。
 ⑤の公開基準に則り、公開可能な資料を選択したうえで公開します。

(3) 資料情報システムの活用

- ①資料情報システムを改修し、データをWeb用に変換し、インターネット上で公開できるようにしました。
 (平成30年度、令和1年度)
- ②財団が運営する「Tokyo Museum Collection」と連携し、同サイト上でも資料情報を公開します。
 引き続き、東京都写真美術館・東京都現代美術館のコレクションとともに利用いただけます。
- ③内閣府が運営する「ジャパンサーチ」と連携予定の②に対し、資料情報を提供。同サイト上でも資料情報を公開します。

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

**提案課題3 [事業に関する業務] 3 資料等に関する情報提供について
(2) 図書室の運営**

1. 運営方針

- 26万点におよぶ蔵書数を誇る本館の図書室は、「江戸東京の専門図書館」として広く認知され、専門知識と豊富な経験を有する司書によるレファレンスサービスは、「国立国会図書館レファレンス協同データベース」などで幅広く情報発信されるなど高い評価を得ています。今期指定管理期間においては、以下の方針により、図書室をさらに充実・発展させていきます。
- ① 本館の図書室は、一般図書や定期刊行物などを通して江戸東京に関する情報を広く提供する「江戸東京の専門図書館」として機能させるほか、お客様からの質問を集約する「江戸東京の知の総合窓口」としての役割を果たします。
 - ② 本館の図書室は、館蔵古文書などをマイクロフィルムで公開するとともに、所蔵図書の書誌情報を随時インターネット上で公開するなどして、江戸東京の歴史と文化の研究の発展に貢献します。加えて他機関では見ることができない、東京都関連図書のレアブック(1964年東京オリンピック関係、私家版の書籍、明治～大正期の地域誌、団体の記念誌など)を積極的に紹介し稀少性をアピールします。
 - ③ 本館の図書室は、一般書はもとより、江戸東京に関する入手困難な専門書や展覧会図録、逐次刊行物、マイクロフィルム、CD-ROM、自治体発行の出版物、唯一性が高い地域資料なども収集します。
 - ④ 検索利用数が年々増加しているWEB-OPACのさらなる利用促進を図ります。
 - ⑤ 「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」に参加する等、他の公共図書館との連携により、利用者の利便性向上に寄与します。
 - ⑥ 司書は専門的なレファレンスサービスの提供を行い、館のほかにも他機関へその情報を提供し、学術の発展に寄与します。また学習相談会やワークショップなどの教育普及事業を実施します。
 - ⑦ 司書は日常的な図書室の運営とともに、博物館資料として位置づけられている当館図書資料の特殊性を踏まえ、書庫の保存環境を整え、分類整理、棚卸、修復、クリーニングなどを行い、文化遺産として資料を適正に保存・管理します。
 - ⑧ たてもの園図書コーナーでは、建築の専門雑誌・図書類と、多摩地域の専門図書を取り揃え、来園者の知的関心に応えます。

2. 運営方法

- 本館の図書室には、江戸東京の専門知識を有する司書を配し、図書資料の適切な整理と配架を行い、その利用に供するとともに、専門的なレファレンスサービスを行います。
- ① 約26万冊の図書資料を専門的・効率的に配架します。
 - ② 子供からお年寄り、入門者から専門家まで、江戸東京に関する様々なレファレンス(来室・電話・文書・メールなど)に対応し、江戸東京の知を得るための総合窓口とします。
 - ③ 館内スタッフのレファレンスにも対応し、博物館活動を情報面から支援します。
 - ④ インターネットを介し、様々な角度からの図書検索、横断検索を可能にします。特にWEB-OPACに通常の書誌情報だけでなく、目次項目などの詳細な情報も入力し、目的とする文献資料を広範囲に検索することができるようにします。加えて江戸博が所蔵する標本資料について書かれた館蔵資料掲載誌や展覧会カタログなどについても別に項目を立てて入力していくことで、今まで以上に検索がしやすくなり、図書資料と標本資料を関連付けた調査研究を可能とし、活用の幅を広げます。
 - ⑤ X(旧Twitter)、Facebook等による図書や図書室活動の紹介など、SNSを活用し、情報を積極的に発信し、江戸東京に関する興味・関心を喚起します。
 - ⑥ 蓄積されたレファレンスの回答から、特に利用者の関心が高いもの等を抽出し、「レファレンス事例集」としてホームページに掲載します。そのデータを国立国会図書館の「レファレンス協同データベースサービス」事業に提供し、知識の集積と還元を図ります。
 - ⑦ 教育普及事業担当と連携して、児童向けおよび教師向けの図書室利用法(調査方法)講座や、展示室と図書室を結びつけるセミナーを実施します。
 - ⑧ 開催中の展覧会に関係する図書を集め、「特集コーナー」として閲覧利用に供します。また図書室内で、司書の企画により、時宜に応じたテーマでミニ展示を開催します。
 - ⑨ 障害の有無に関わらず、全ての利用者に対応するべく、可能な範囲で合理的配慮を行い、利便性の向上に努めます。



事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

提案課題3 [事業に関する業務] 5 展示及び展覧会について
(1)魅力的な展示及び展覧会の実施に向けた方針

1. 実施方針

- (1) 資料の収集と管理、調査研究の学術的成果を、展示及び展覧会でわかりやすく紹介します。
- (2) 常設展示室を拠点に、江戸東京の歴史と文化の今日的課題も取入れて発信します。
- (3) 展覧会を通して江戸東京の歴史と文化を広く都民、そして世界に向けて発信します。
- (4) 大規模改修工事に協力するため、常設展の撤収、解体工事、復旧工事を行います。
常設展示を刷新し、本格的なりニューアルを実現します。

近年、マスコミ等と共催する大型の特別展は開催経費が膨張し、入場料や図録、グッズ類の価格上昇が続いています。特別展は、時宜にかなったテーマで多様な来館者を迎えることで、常設展示室やホール、図書室など、館全体の認知を高め、これらの利用を促す事業にあたりますが、来館者から若者が遠のく傾向にあります。そこでユース層を無料とする特別展示等の自主事業開催のため、関係する共催先等に働きかけを検討し、利用者の多様性の担保と継続的確保を図ってまいります。

(本館)

- ・博物館という施設の特徴から、高齢者や外国人などへの対応が必要です。このため、公共交通機関や病院、銀行など公共性の高い環境で用いられている電子チケットや予約システムの導入を図り、利便性向上策を図ってまいります。
- ・混雑緩和についても、わかりやすい方法で解消を図ってまいります。
- ・混雑が見込まれる展覧会について、日時指定券制を継続します。

(分館)

- ・現行の事前予約システムは、Welcome Youth、家族ふれあいの日、シルバーデーといった財団や東京都が実施している無料入園に対応していないため、チケットのキャンセル・返金作業が発生し、かえってサービスの低下となる場合がございます。今後は、よりきめ細かい設定ができるシステムの導入を検討し、来園者サービスの維持向上に努めてまいります。

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

提案課題3 [事業に関する業務] 5 展示及び展覧会について
 (1)魅力的な展示及び展覧会の実施に向けた方針

2. 具体的な方法

(1) 常設展示室を拠点とした情報発信

常設展示を中心に、実物資料や精巧な複製・模型、ICT技術を活用した多面的な展示解説などで、外国人や子供・青少年をはじめとする様々な層に、江戸東京の歴史と文化の多彩な魅力を発信します。



江戸の長屋から昭和の団地まで、住生活の諸相を等身大模型で実感



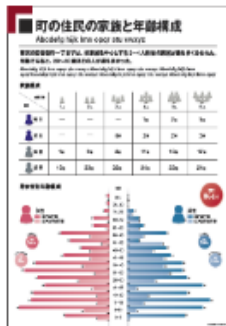
常設展示室では、資料の収集管理、調査研究の成果により選択し、文化財保護の観点から定期的に展示替えをしながら紹介



江戸の寿司屋台模型や豊富な展示資料で、世界に誇る東京の食文化のルーツを発信。館内レストランでは飲食体験を検討



実物資料で江戸の防災と災害を紹介。重さ15キログラムの纏を振って、江戸の町火消しの「粋」を体感



赤外線とNFCを利用した音声ガイド端末(解説文も表示)



英文短文解説を入れたグラフィックパネルで、展示趣旨を端的に表現



日本語と英語の解説パネルと、タブレット端末による多言語解説

※端末・音声ガイドによる解説言語は日、英、中(簡・繁)、韓、仏、西、独、露、伊、葡、タイ語、マレー語

提案課題3 [事業に関する業務] 5 展示及び展覧会について
(1) 魅力的な展示及び展覧会の実施に向けた方針

○ 子供の感性を育む取組等
 スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」のバリエーションを増やし、世界中の子供や若者に常設展示のテーマや資料の理解を促していきます。
 また、アウトリーチ事業「えどはく移動博物館」を継続し、障害のある方や遠隔地など、気軽に来館しづらい環境にある子供や若者層へ教育普及事業を実施していきます。
 そして館再開後、「首都圏小学6年生の社会科見学先」のポジションを速やかに回復するための普及広報活動を行います。併せて、上記の児童が持続的に館を利用できるよう、ユース層を無料とする特別展示等の自主事業開催のため、関係する共催先等に働きかけを検討・実施してまいります。

(2) 展覧会における情報発信

① 館蔵資料を活用した情報発信

61万点の収蔵品を活用し、江戸東京という都市の歴史と文化を広く都民、そして世界に向けて発信できる、様々な展示企画を実施します

【展開例】



将軍や大名、そして姫君たちの旅に関わる資料をとおして、過去から現在まで続く街道の歴史を展示（「江戸の街道」展）



日本をイメージするキーワード「サムライ」。世界有数の大都市・江戸のサムライの活動を絵画や古写真から浮き彫りに（「士 サムライ」展）



当館所蔵の工芸品に加え、日本初公開のバルディコレクション（イタリア）をとおし、日本が世界に誇る「ものづくり」の歴史を紹介（「江戸ものづくり列伝」展）

② 都立博物館に期待される情報発信

日本はもとより世界から注目を受ける博物館の展覧会として、時宜にかなない（Timeliness）、対象を明確にした（Target）、目玉資料のある（Top of sales point）展示を館独自の「**3T戦略**」と位置づけ実施し、来館者の期待に応えていきます

【展開例】



東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催の1年前に、江戸のスポーツの歴史と近代オリンピックの歩みを紹介（「江戸のスポーツと東京オリンピック」展）



国内外の浮世絵の名品を厳選して展示。江戸の浮世絵の高い芸術性と技巧をあますところなく展覧（「大浮世絵」展）

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 5 展示及び展覧会について
(1)魅力的な展示及び展覧会の実施に向けた方針

③ より広いダイバーシティの観点

日中韓の都市博物館の交流を通じ、これまでも「江戸と北京－18世紀の都市と暮らし」、「18世紀ソウルの日常－ユマンジュ日記の世界」展等を共同で行い、令和4年度は「隅田川－江戸時代の都市風景」展をソウル歴史博物館で実施いたしました。

また、令和4年度にはパリ日本文化会館において、江戸時代の人々の生活と動物との関係を取り上げた「いきもの展」を開催し、令和6・7年度に国内各所にて巡回展示を行う予定です。

引き続き、日中韓の都市博物館の交流、ICOMを通じた国際交流などを通じ、歴史、文化の多様性の相互理解に努め、情報発信してまいります。

61万点の収蔵品を活用し、江戸東京という都市の歴史と文化を広く都民、そして世界に向けて発信できる、様々な展示企画を実施します。

(3) PDCAサイクルによる展示企画

展示の企画は、内部評価を行った上で計画(Plan)を策定し、外部評価を経たのち、実施(Do)します。実施にあたり自己点検および外部評価(Check)を受け、以降の計画を改善(Action)します。
 ※具体的な業務の流れについては後述いたします。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 5 展示及び展覧会について
(2) 展示及び展覧会の実施体制

1. 展覧会事業の流れ

展示及び展覧会の実施方針に基づき、下記の流れで事業を実施します。



○ 環境負荷の少ない持続可能な事業展開
 従来から実施してまいりましたが、契約方法の工夫により、複数の展覧会で造作物を共用したり、既存の什器備品類を活用したりと、廃棄物と経費の削減を図ってまいります。

2. より魅力的な展示及び展覧会の開催に向けた展開

(1) 内容の充実

- ①目的・趣旨の明確化
- ②資料の調査やデータの充実
- ③資料の収集
- ④来館者ニーズの反映
- ⑤効果的な展示手法の導入
- ⑥研究成果の紹介
- ⑦言語的・身体的バリアフリーの促進
- ⑧教育的要素の拡充

(2) 運営の強化

- ①来館者の安全に配慮した人員配置
- ②資料保護に特化した環境整備、人員配置
- ③性質に応じた共催形態の選択(共同出資方式、協力金方式など)

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

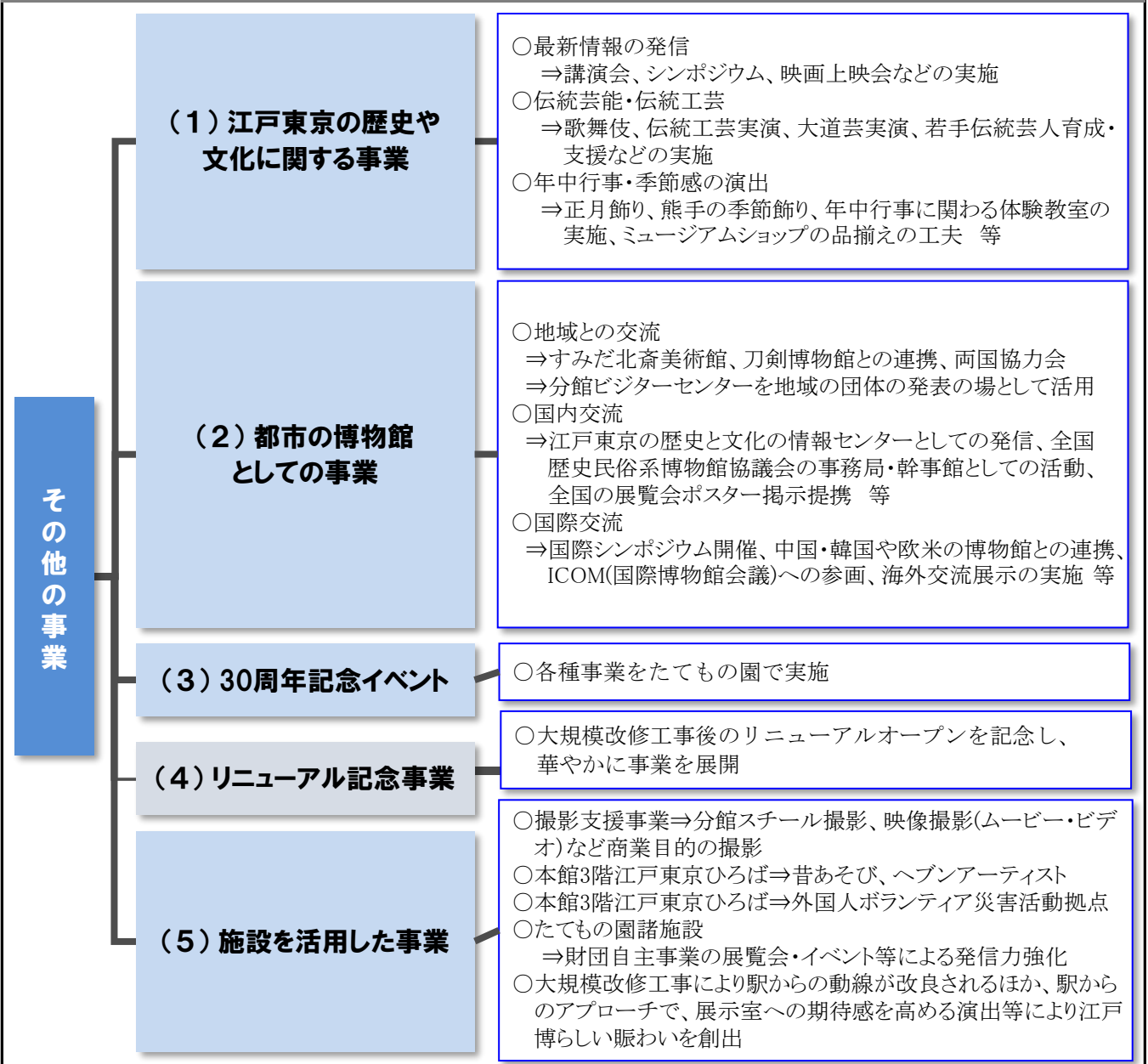
**提案課題3 [事業に関する業務] 7 その他の事業について
(1) 専門博物館としての方針と取組**

1. 実施方針

博物館事業の6つの柱「資料・展示・教育・運営・研究・交流」を念頭に、《江戸東京という地域をさらに「深く究明」海外の都市へ江戸東京を「広く発信」》を実現するための取組を展開して行きます

- (1) 江戸東京の歴史や文化に精通した学芸員・研究員・司書などの専門職員が、その調査・研究の成果を活かして企画・実施します
- (2) 都市史の専門博物館として、常に都市の歴史・文化・生活という視点に立った事業を展開します
- (3) 令和5年度、江戸東京博物館開館30周年を迎えます。江戸東京たてもの園を中心に、30周年記念の機運を盛り上げます
- (4) 令和7年度に予定されているリニューアルオープンにあわせ、記念事業を実施します。
- (5) 施設を活用した事業を実施し、入館・入園者の増加に努めます

2. 事業体系



事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
----------	-----------------

**提案課題3 [事業に関する業務] 7 その他の事業について
(2)大規模改修中の取組**

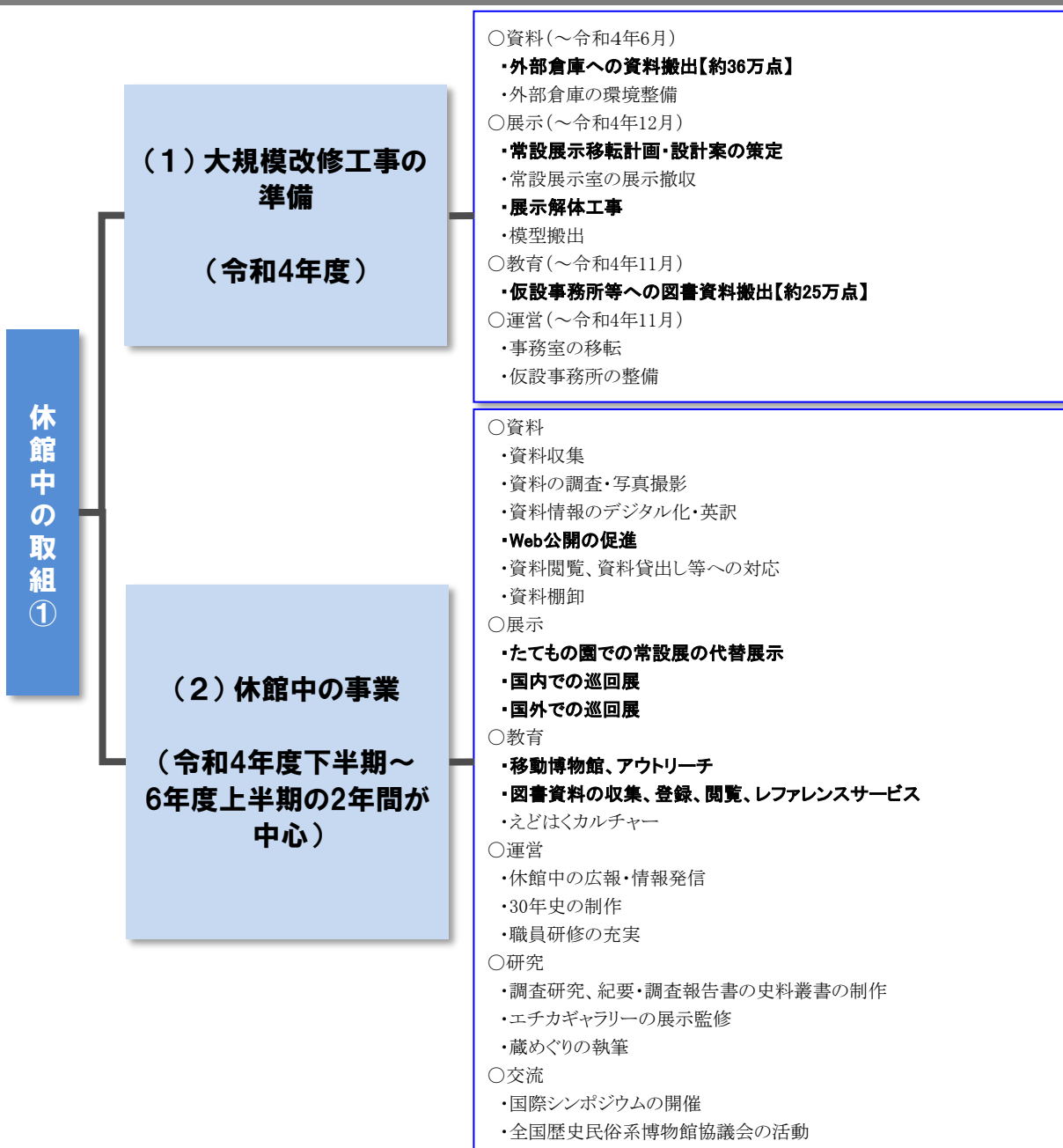
1. 実施方針

令和4年度から7年度 まで、江戸東京博物館は大規模改修工事のため、休館する予定です。財団は、東京都による大規模改修工事に協力すべく、すでに「展示・建築移転改修計画」の策定や、改修工事基本設計等への参画、空前絶後の全収蔵品搬出プロジェクトの推進など、着々と準備を進めています。

休館中も引き続き、次の方針に基づいて、魅力的な事業を多角的に展開するとともに、リニューアルオープンの準備を推進します。

- (1) 東京都による大規模改修工事が円滑に進むよう、専門知識とこれまで培った運営ノウハウを活かして協力します。
- (2) 休館中もコレクションを活用し、資料情報のWeb公開、国内外の巡回展、移動博物館、図書室での閲覧など、江戸博らしい魅力あふれる事業を展開します。
- (3) 「新しい江戸博」の誕生に向けて、リニューアルオープンの準備を多面的に進めます。

2. 具体的な取組



提案課題3 [事業に関する業務] 7 その他の事業について
(2)大規模改修中の取組

休館中の取組②

(3)リニューアルオープンの準備
(令和4年度～7年度)

- 資料
 - ・展示室・収蔵庫等の環境整備(枯らし、展示ケース等)
 - ・外部倉庫からの資料搬入、燻蒸
 - ・閲覧・公開体制の充実
- 展示
 - ・常設展復旧工事の準備、実施
 - ・常設展の展示計画案の策定、準備、展示
 - ・常設展図録等の制作
 - ・特別展計画案の策定、企画・準備、展示
 - ・企画展計画案の策定、企画・準備、展示
- 教育
 - ・教育普及事業の計画案の策定、準備
 - ・ボランティア活動計画案の策定、募集、研修
 - ・映像音響システム計画案の策定、準備
 - ・図書資料の搬入ならびに図書室の移転、開室準備
- 運営
 - ・工事後の確認(竣工検査、消防検査、指導課検査等)
 - ・事務室の整備、移転
 - ・初度調弁の準備、設置
 - ・館のサービス向上案・運営案の検討、準備
(チケット発券システム、通信システム、セキュリティシステム、来館者動線、バリアフリー対応、ユニバーサル化、アメニティの充実、3階広場の活用等)
 - ・館の運営準備(建物管理等の契約準備等)
 - ・サイン計画案の策定、実施
 - ・ショップ・レストラン等の運営計画策定、運営事業者の選定
 - ・広報計画案の策定、実施
(リニューアル広報、ホームページ改訂、パンフレット改訂、PR用DVD等の作成等)
 - ・3階江戸東京ひろばの活用による鑑賞体験の提供
 - ・常設展示の解説手法の改善
 - ・チケット販売方法の改善
 - ・デジタルサイネージによるわかりやすい館内案内
- 研究
 - ・研究計画案の策定、準備
- 交流
 - ・リニューアルオープン事業の準備
 - ・ホール等活用事業の計画策定、企画・準備

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 8 人材の育成について

1. 実施方針

江戸東京の歴史と文化の継承・発展のため、以下の研修などを行うことによって、博物館活動に理解を深め、それを担う人材を育成します。

2. 具体的な取組

(1) 学芸員資格取得希望者を対象とした研修(学芸員実習:本館・分館)

- ①学芸員課程をもつ全ての大学に受入要綱を発送し、積極的に学芸員実習生を受け入れます。学芸員実習の受け入れを継続していきます
- ②「東京都歴史文化財団パートナーシップ事業」の会員校から、一定枠で学芸員実習生を受け入れます

(2) インターンシップ

専門職員の育成という観点から、より高度な実務研修を希望する大学院・博物館に対して、インターンシップを実施します。文化施設への従事を希望する修士相当の学生インターンシップの受け入れを継続していきます

(3) 大学生の現場体験

より実践的な職場体験を希望する大学の学生を受け入れ、教育普及事業の運営体験等を行うことで、社会人としてのマナーや、コミュニケーション能力を身に付けてもらいます

(4) 高校生対象の研修

- ①東京都が実施する「次世代リーダー道場」等の育成事業による研修生を受け入れます
- ②伝統文化を体験的に学習するプログラムを策定し、都立高校と連携した研究授業を実施します

(5) 中学生の職場体験

中学校の教育課程に位置付けられている職場体験を積極的に受け入れ、生徒の育成に努めます。学校との連携事業である訪問学習の受け入れを継続していきます

(6) ボランティア育成

- ①新規に展示ガイドボランティアになった方には、展示や収蔵建造物の解説や歴史的背景の講義など、実践に役立つ養成研修を行います
- ②ボランティアのスキルを向上させるため、専門研修を行います
- ③「東京観光ボランティア」など、館以外の場所で広域的に活動するボランティアに対し、東京の歴史と文化に関する研修をおこないます

(7) 東京都教職員対象の研修等

- ①東京都の教職員を対象に、博物館の展示や体験学習を応用した授業プランの作成に関する研修を行います
- ②分館では地元小金井市の新任教員を研修生として受け入れ、地域の教育施設として活用してもらいます
- ③東京都職員研修所など、東京都や外部機関の要請に基づき、博物館活用方法などの出張講座を実施します

(8) 東京都新規採用職員対象の研修

東京都の教職員、新規採用職員を対象に、東京の歴史概論を講義します

(9) 国内外の博物館との人事交流・研修

中国や韓国の都市や、欧米の博物館と人事交流を行い、学芸員、研究員、研修生を積極的に受け入れます

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 9 館の事業を支える仕組みについて (1) 広報の充実

1. 実施方針

- (1) 「江戸東京の歴史と文化の情報発信基地」として、館の存在を広く国内外へ発信します
- (2) 様々なメディアを活用し、多彩な事業をより魅力的にアピールします
- (3) ターゲットに応じた、きめ細かな広報活動を実施します

2. 具体的な取組

(1) 館の存在を国内外に発信

江戸東京の歴史と文化を着実に発信するとともに、館のブランドイメージを高めます。

本館と分館ではお客様が期待する内容が異なっているため、本館と分館の特徴にあわせた広報活動を行います。

本館：館の存在を広くアピールするとともに、東京を代表する博物館として幅広い対象に向け広報します。

分館：野外博物館としての魅力を効果的に発信し、情景再現事業では地域密着型の広報にも力を入れます。

- ① ホームページの運営：館の魅力を伝える「顔」として、国内外にわかりやすい発信に努めます。
- ② 施設案内パンフレットの発行：館の特徴が一目でわかる、利用しやすいパンフレットを発行し、広く配布します。
- ③ 世界各国に向けた取材対応：日本を代表する博物館として国内だけでなく世界各国のメディアに対応します。
- ④ ロケーションボックスの対応：テレビや映画のロケ地として、江戸東京たてもの園の建造物や街並みを活用します。

(2) さまざまな手段を利用した広報戦略

大規模な特別展、江戸東京がよくわかる常設展、楽しく学べるえどはくカルチャー、懐かしい情景再現事業など、当館の多様性に富む事業の魅力のアピールします。

- ① 定期刊行物「江戸博ニュース」「たてもの園だより」：

紙媒体ならではの幅広い層に向けた読みごたえのある広報誌の発行

- ② ホームページからの情報発信：

江戸東京博物館、たてもの園のことを検索した人が確実に知りたい情報をまんべんなく掲載

- ③ SNSによるリアルタイム情報発信：

X(旧Twitter), Facebook, Instagramの使い分けによるさまざまな層に向けた情報発信

江戸東京博物館では、様々な動画や季節・歳事に合わせた所蔵品紹介など、SNSの動向を見据えた一層効果的な発信。たてもの園では、インスタグラムを活用した動画発信を既に行っているが、今後は動画発信の充実に加え、これまで行ってこなかったストーリーズ投稿やハイライト投稿など、より認知度向上に向けた発信を積極的に実施していきます。

- ④ プレスリリースの発信：

マスコミやブロッガー等に対し、ネット配信、FAX配信を行い展覧会及び事業をアピールしていきます。

- ⑤ プレス向け内覧会の実施：

プレス向け内覧会ではマスコミ等の記者やブロッガーを対象に、学芸員が展覧会を解説します。

(3) 都庁、財団共通広報、関係機関との連携

東京都など関係機関と連携して広く都民に働きかけをします

- ① 広報東京都や、財団発行の印刷物への掲載
- ② 観光情報機関や施設、メディアとの連携

(4) 公立館の使命として

公立館としての説明責任を果たすため、都民に向けて積極的に館の情報を発信します。

- ① 年度ごとの事業実績をホームページで公開
- ② 視覚障害者向けパンフレットの発行
- ③ ホームページのアクセシビリティ対応
- ④ 開館30年史の発行

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 9 館の事業を支える仕組みについて
(1) 広報の充実

3. ターゲットに応じた情報発信

(1) 江戸東京博物館には各年代のお客様がまんべんなく来館されます。年代によって館への関心の持ち方、利用の仕方などが異なるので、対象にあわせた広報を展開します。

① 小・中・高生

- ア 団体見学が多いので、団体来館して下さった学校には、お礼状と今後予定されている展覧会や事業のチラシを送付します。
- イ 小・中・高生が関心を持つと思われる展覧会や催事のポスター・チラシを学校へ送付します。
- ウ 小学校高学年以上を対象としたガイドブックを発行し、江戸東京博物館の展示解説だけでなく、博物館の施設や博物館で働く人々の紹介なども積極的に行います。
- エ ホームページからダウンロードできる小学校高学年以上を対象としたワークシートを見やすくし、子供たちが興味を持ってくれるようなコンテンツを充実させます。

② 10歳代後半から30歳代まで

- ア X(旧Twitter), Facebook, instagramなどのSNSを積極的に活用します。写真や動画などさまざまなコンテンツを即時性をもって配信します。
- イ さまざまな媒体と連携し、若い世代の興味関心をひくような魅力あるコラボレーションに努めます。

③ 中高年層

- ア 従来型の紙媒体や、広告媒体を活用して、歴史好き、美術好き、旅行好きなどさまざまな興味関心を持つ方に来館を促します。

(2) 外国人を対象とした広報を拡充します。
江戸東京博物館の認知度を高め、来館を促します。

- ① 情報発信の多言語化に努め、外国の方々に対し、さらに館の情報を発信します。
- ② 館の施設案内パンフレットは、都内及び空港の観光案内所、ホテル等で配布し、外国の方々が見取りやすい環境を整備します。
- ③ 「江戸東京博物館ニュース」の英語版を継続し、展覧会をはじめとする館の様々な事業に、外国の方々が見取りやすいようにします。
- ④ 外国の方々が見取りやすい広告媒体を出稿し、積極的に館の存在をアピールしていきます。
- ⑤ 観光情報発信機関と連携し、セールスコールやパンフレットの送付などを通し、国外の旅行会社等に館の情報を周知します。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題3 [事業に関する業務] 10 収蔵資料の収集・保管・活用等のあり方

1. 実施方針

「都立文化施設運営指針」を踏まえ、財団全体で収蔵資料の収集・保管・活用等の主要課題に関して、以下の通り課題解決に取り組んでまいります。

- (1) 都立文化施設の連携を強化した全館横断型の「東京都コレクション検討会」を設置し、収蔵資料の効率的な収集と収集後の効果的な活用を促進します。
- (2) 今後の収蔵スペースを効率的に確保するため、各館共通の外部収蔵庫導入を図ります。
- (3) 再評価の仕組みを導入し、劣化が著しい等、保存・活用の見込みがない資料については、「除籍」を行います。
- (4) 再評価により教育目的利用等がふさわしい資料は、新たなカテゴリーを設け、保管管理も分け、積極的な活用を図ってまいります。

2. 具体的な取組

(1) 新たな資料収集・選定

これまで、資料収蔵委員会を各館ごとに開催していたところ、より戦略的に資料収集・選定を実施すべく、各館収集方針に基づいた「東京都コレクション収集活用方針案」を財団本部で策定いたします。その後、東京都の各館収蔵委員会等を実施し、現物確認したうえで収集資料・評価額を決定します。当館の収集委員会等については、「課題3 [事業に関する業務] 1 資料の収集について」をご覧ください。

①通年業務：各館で、収集方針に基づいた収集候補資料の選定、選定候補リストの作成（購入・寄贈等）

（各館収集方針： 江戸東京博物館収集方針 現代美術館収集方針 写真美術館収集方針 庭園美術館収集方針 ）



- ②財団本部が「東京都コレクション検討会」(仮)を開催 ※各館副館長、事業企画課長等の参加
- ・各館の収集方針や次年度の戦略的収集候補案に基づき、次年度の「東京都コレクション収集活用方針案」を検討
 - ・東京都コレクション横断的な収集検討(各館収集候補情報の共有・意見交換、重複等の回避、収集後の活用など)
 - ・購入予算の配分や、緊急時の購入引受に関する相互調整
 - ・コレクション管理体制の確認・課題検討・調整



財団方針案を都に提出

③東京都の各館収蔵委員会等の実施

(2) 効率的な収蔵スペースの確保

・今後の収蔵スペースを効率的に確保するため、共通の外部収蔵庫導入を提案します。各館で個別に手配するよりも、計画的な収蔵が可能となります。

・また、当館及び今後の各施設の将来の改修工事等を見据え、共通の外部収蔵庫導入に向けた収蔵計画の策定を以下の通り、進めてまいります。

- ・共通の外部収蔵庫の収蔵スペースの算出（将来部分の見込みも含む）
- ・共通の外部収蔵庫の費用検証
- ・共通の外部収蔵庫の管理運営スキームの検討
- ・各本館収蔵庫と外部収蔵庫の包括的管理を目指し、各館学芸員等の増員検討
- ・共通の外部収蔵庫における収蔵品の保存と活用のため、専門人材（コンサバター、レジストラー等）の配置を検討

・そのほか、将来的な活用の見込みが薄い寄託資料については、返還を推進します。

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

提案課題3 [事業に関する業務] 10 収蔵資料の収集・保管・活用等のあり方

2. 具体的な取組

(3) 再評価の導入と除籍

・財団全体で各施設の収蔵資料について、再評価の仕組みを以下の観点から導入します。

○再評価の仕組みの導入

- ・文化財としての保存よりも教育利用目的等に活用が見込まれる場合
- ・多数の同資料の所蔵等により、他機関への移管等により活用が見込まれる場合
- ・複製品等により、文化財としての価値が認められない場合
- ・収蔵庫内や他資料に汚染等の悪影響をもたらす場合
- ・予期せぬ被災等により修復が不可能な状況に陥った場合
- ・収蔵し続けることが法令等に反する場合（窃盗・略奪・贋作等）
- ・その他、資料番号の統合（資料管理の効率化、資料公開の質の向上）

※ 活用資料（仮）として積極的な活用

※ 万が一の災害等の状況にも対応

・除籍の導入

- ・劣化の著しい、他に悪影響を及ぼす資料等について、除籍及び処分等を当館にて検討します。
- ・除籍については、「東京都コレクション検討会」において財団全体で協議し、都の収蔵委員会等に付議します。

・収蔵資料の再評価及び除籍プロセスについて、記録化し、保存します。

(4) 再評価後の資料の活用について

・再評価により、教育目的利用等がふさわしい資料は、「長期貸与」「移管」などの区分を設け、積極的な活用を図ってまいります。

・具体的には、他機関での活用が見込まれる資料についてリストを作成し、区市町村の博物館や公民館、学校団体等での教育資料としての貸与を促進します。



再評価後資料の活用イメージ
(大島開発総合センター大集会室でのえどはく移動博物館)

・当館では、資料係に再評価担当を配置し、収蔵資料とは異なる、保管や貸出の規定等を新たに整備し、積極的な再評価後の資料の活用を図ってまいります。

・具体的には、現在都内で実施中の移動博物館等で、体験型資料として活用してまいります。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題6 [館の管理その他に関する業務] 1 館の管理について (1)施設等の管理業務

1. 実施方針

館の各事業運営と連携をとると同時に、都立文化施設として、「関係法令等に従い」「計画的に」「経済的かつ効率的に」「適切な措置を行う」ことにより、『安定した確実な管理』を実施します。また、物品については『適切な管理』を実施します。

館の特性等を考慮し、以下のポイントは、特に重要と考えます。

●幅広い年齢層の施設利用者に快適性・安全性・利便性を確保する維持管理を行います

本施設の幅広い年齢層の来館者に対して、「粋と賑わい」を創出するために施設の品格を保ち、サービスにおける快適性・安全性・利便性を確保することが必要です。「江戸東京の文化の振興と継承」という使命及び公共の文化施設の業務を確実に遂行します。開館から20数年経過し、老朽化も目立つ箇所もあります。東京都とも連携を強化し、大規模改修実施までの間は、より適切に予防保全を行い、安全性確保に努めます。

【日々の施設設備のメンテナンス方針】

関係法令や維持保全業務標準仕様書(東京都)、設備機器製作所基準等に基づき、設備機器の運転・監視、保守、点検や清掃等の保全業務を計画的に実施します。また、破損や故障等の修繕には迅速に対応し、施設の機能維持に努めます。各施設設備のメンテナンスの主な内容は別表のとおり。

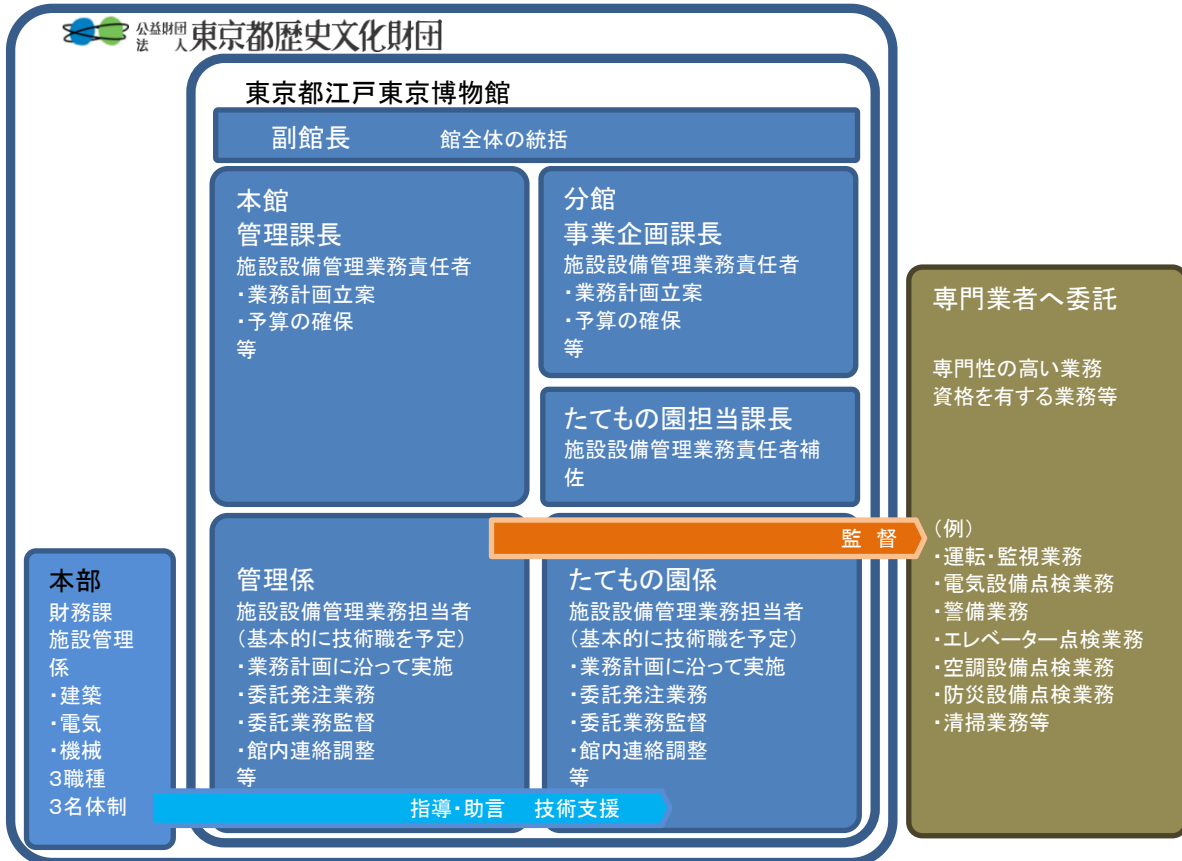
2. 実施体制

施設設備管理業務を効率的に行うために次のように実施体制を整えます。

館全体の統括する副館長の下、本館は、管理課長を施設設備管理業務の責任者とし、管理系の係員(基本的に技術職を予定)を実務担当者としします。また、分館については、事業運営を考慮し、事業企画課長を施設設備管理業務の責任者としします。現地での機動的対応は、たてもの園担当課長により事業企画課長を補佐し、実務は、たてもの園系の係員(基本的に技術職を予定)を担当者としします。本館・分館ともに、業務計画の立案やその実施においては、館の特性や運営を考慮し、本部財務課施設管理系の技術支援を受けながら、組織的に対応します。

また、物品は、館全体の統括する副館長の下、管理課長を物品管理業務の責任者とし、経理担当系の係員を実務担当者としします。東京都への報告等は、本部財務課契約係を通じて、組織的に対応します。

【施設設備管理業務実施体制】



事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

**提案課題6 [館の管理その他に関する業務] 1 館の管理について
(1) 施設等の管理業務**

【指定管理者による修繕工事等の考え方】

指定管理者による修繕工事等は、施設管理の観点から、以下のような考え方で取り組みます。

○日常的な補修・修繕工事…破損や故障等に迅速に対応して建物の現状機能を保持する工事

- ・安全確保を最優先し、かつ、来館者、展覧会及び公演等への影響を考慮した応急措置、補修・修繕を実施します
- ・事業・運営等に根本的影響が無く、その不具合等が拡大する恐れのないものについては、滞りなく適切に補修・修繕を実施します
- ・予定価格が高額の場合は、都との協議のうえ実施します
- ・工事記録は適切に保管するとともに、都に報告します

○建物の安全管理のための修繕工事…建物の運営における安全管理等のための設備機器のオーバーホールや消耗品の交換等の工事

- ・定期点検等による機能や劣化状態の把握により、故障等の不具合が生じる可能性が高いと予測された場合、予防的な措置として実施します
- ・事業・運営に欠かせない重要な設備機器や事故に繋がる恐れのあるエレベーター等は、適切な予防保全を行い安全管理に努めます
- ・予定価格が高額の場合は都との協議のうえ実施します
- ・工事記録は適切に保管するとともに、都に報告します

○施設の維持向上に必要不可欠な改修工事(1)…法令改正等により、社会的・政策的に施設整備が求められるもの、防災対策、バリアフリー、インフラ整備及び省エネ対策等に関する工事

- ・都との協議のうえ実施します
- ・工事記録は適切に保管するとともに、都に報告します

○施設の維持向上に必要不可欠な改修工事(2)…上記のいずれにも該当せずかつ著しい原状変更を伴う改修工事等(利用者サービス向上(ショップ・レストランの改装等)、施設管理の利便性の向上(事務室のレイアウト変更等)のための工事等)で、指定管理者の発意によるもの

- ・指定管理者の自主財源で実施します
- ・都との協議のうえ実施します
- ・工事記録は適切に保管するとともに、都に報告します
- ・原則として、原状回復します

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題6 [館の管理その他に関する業務] 1 館の管理について
(2) 危機管理体制の整備

1. 危機管理対策の基本的考え方

施設の管理運営に伴う危機とは、火災、地震、風水害、感染症、不審者、テロ、建物・設備等に起因する事故など、様々なものが想定されます。これまで財団が培ってきた安全管理ノウハウに基づき、危機管理対策の向上に努めてきましたが、さらに新型コロナウイルス等の感染症が発生した際の対応を含め、危機に際し柔軟な対応ができるよう、危機管理マニュアルの見直し、社会状況に合わせた対策の策定や訓練を行うなど、これまで以上に危機管理対策の推進を図ります。その際、都立文化施設として、地域や各館の特性等を踏まえ、より実践的・効果的な対策を講ずべく尽力いたします。

財団は、東京都が目指す「安全・安心な都市」の実現に向け災害対応力を備えるとともに、後世に継承させていくべき文化資源を守ることを目的に、以下の危機管理対策を実施します。

2. 危機管理における対応・対策

(1) お客様の安全確保等の取組

来館されたお客様に対する安全確保は、施設管理運営の根幹となります。危機管理マニュアルを作成し、日頃から対策を進めるとともに、非常時の連絡体制を明確にし、万全の対応をとっていきます。主な危機に対する対応は以下のとおりです。

なお、テロ等の緊急対処事態に備えて、日頃から、東京都等の関係機関と危機情報を共有するとともに、各館と所轄警察署との緊密な連絡体制を維持していきます。また、オリンピック・パラリンピック開催時に実施したテロ対策の取り組みを活かし、テロ等に対し、引き続き、対策を進めます。

さらに、新型コロナウイルスをはじめとした、感染症の拡大防止についても、お客様の安全確保のため、また、都民開放施設の責務として、東京都及び医療機関等と連携し適切に実施いたします。

	対 策	発災時の対応
地震 火災 風水害	<ul style="list-style-type: none"> 火気器具周辺には燃えやすいものを置きません。 展示品等の落下防止、転倒防止などの対策をします。 消火器等防災設備位置と避難誘導導線について日頃より把握するとともに定期点検を実施します。 館周辺を見回り、強風にとばされやすいものや被害拡大につながる危険物を事前撤去します。 看板等の取り付けを確認します。 日頃より、周辺機関と連携を密に取り、あらゆる事態を想定した訓練を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> お客様の安全確保を最優先とし、各自が自衛消防計画に基づき初期消火、消防・警察への通報、避難誘導を行います。 地震の場合には、地震の大きさや震源地情報、館周辺の被害状況等を情報収集し、お客様に適宜適切に情報提供を行います。 SNSを利用して、施設周辺の状況や交通情報等お客様に必要な情報を提供いたします。 負傷者が発生した場合は、負傷者の応急手当や、同行者の捜索を行うとともに、直ちに医療機関に連絡を行い、搬送の協力を行います。
不審物 不審者 テロ対策	<ul style="list-style-type: none"> 挙動不審の者がいたら声をかけるとともに、関係部署への連絡連携を密にするよう心がけます。 職員は必ず職員証を携帯します。 放置機材や荷物等による死角となる場所をつくりません。 所管警察署等が行う訓練への参加等、日頃から緊密な連絡体制を構築します。 テロ予告やテロ発生時の対応について、事前に危機管理マニュアルに定めることで、万が一、予告があった場合及びテロが発生した際に、適切に対応するよう備えます。 	<ul style="list-style-type: none"> お客様の安全確保を最優先とし、警察への通報、関係部署への連絡を速やかに行い、迅速に必要な対応を行います。 テロ発生時には、事前に定めたマニュアルに基づき、テロの形態等に応じて避難行動を行うなど、適切に対応を行います。 爆破予告等があった場合、危機管理マニュアルに基づき、直ちに警察へ通報するとともに、お客様を館外の安全な場所へ避難誘導いたします。避難誘導後、トイレ、ゴミ箱など館内を再点検し、不審物の有無を確認します。
感染症	<ul style="list-style-type: none"> 保健所や最寄り医療機関等との連絡体制を構築します。 平常時からの対策として消毒液等を設置し注意喚起します。 新型コロナウイルス等の感染症が都内で拡大している時期には、施設管理者として対応方針を定め、徹底して拡大防止に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染の疑いのある来館者が発覚した際は直ちに保健所へ情報提供し、指示に従い行動します。 新型コロナウイルス等に職員が感染した際は直ちに保健所へ連絡をし、指示に従い行動します。併せて、HP等で必要な情報公開を行います。
事故 急病人	<ul style="list-style-type: none"> 所轄警察・消防署や最寄り医療機関等との連絡体制を構築します。 	<ul style="list-style-type: none"> 救護室提供や応急手当の実施、救急車の出動要請(必要に応じて同行)等、迅速に対応します。

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
----------	-----------------

**提案課題6 [館の管理その他に関する業務] 1 館の管理について
(2)危機管理体制の整備**

(2) 展示品、収蔵品に対する取組

お客様に対する安全確保とともに、収蔵している貴重な作品、資料、図書を災害・盗難等から守り、確実に後世に継承させていくことも財団としての重要な役割です。

展示物等の対策としては、ケース、移動式展示ケース等については、アンカーボルトやレベルアジャスターにより固定します。また、作品転落防止策として、台座に乗せる作品にはミュージアムワックスを使用するとともに台座を床に固定し、壁にかける作品については、地震対策用フックを使用し、落下防止の処置をとっています。収蔵庫においては、ラック外の作品については、壁にロープで固定しており、ラック内の作品については、地震対策用フックを導入します。なお、災害時における美術品の保管場所の確保について、検討を進めます。

また、盗難等の対策としては、防災センターにおいて、警備監視員が24時間常駐し、地震・火災のみならず爆発物・盗難・不審人物のチェック等万が一に備えております。

(3) 消防設備及び感知器の設置、訓練等

本館

- ①消防設備
ハロゲン・ガス、スプリンクラー、携帯消火器、消火栓、防火シャッター、非常用自家発電機
- ②感知器
自動火災報知器、煙感知器、熱感知器、排煙機
- ③訓練
消防計画に基づき、近隣消防署の協力を得て、消火器の実放射訓練、屋外消火栓の放水訓練、通報訓練、避難誘導訓練などを行う自衛消防訓練を行います。
- ④その他
館内にAEDを適切な位置に設置し、即時対応が取れる体制を整えます。また、防犯カメラについては、管理責任者を配置して要綱に基づき適正な運用を図っていきます。また、災害時に利用できるWi-Fiを適切に保守・運用します。さらに、避難誘導の際に、海外からの来館者に適切な情報が伝わるよう、多言語による対応にも努めます。

分館

- ①消防設備
放水銃、屋内消火栓、防火水槽
- ②感知器
自動火災報知器、煙感知器、熱感知器
- ③防犯体制・訓練
防災センターにおいて、警備監視員が24時間常駐し地震・火災・爆発物・盗難・不審人物のチェック等、万が一に備えます。また、消防計画に基づき、小金井消防署(消防団)の協力を得て、消火器の実放射訓練、屋外消火栓の放水訓練、通報訓練、避難誘導訓練などを行う自衛消防訓練を年に1回実施し、消防署主催の自衛消防審査会に毎年参加しています。また、近年低価格で高性能な防犯カメラが普及しております。展示品の破損、靴の盗難などが発生している状況につき、公開箇所すべてに防犯カメラを設置することを提案します。

共通

本館・分館とも館内にAEDを適切な位置に設置し、即時対応が取れる体制を整えております。また、防犯カメラについては、管理責任者を配置して要綱に基づき適正な運用を図っていきます。また、災害時に利用できる防災用Wi-Fiを適切に運用します。さらに、避難誘導の際に、海外からの来館者に適切な情報が伝わるよう、多言語による対応にも努めます。

3. 危機発生時の連絡体制の確保

危機発生時は、財団本部及び各館で災害等の情報収集を迅速に行います。各館の状況は、随時、財団本部と東京都に対して報告します。各館では、連絡体制を確保するため、現場対応を担う職員と連絡調整を行う職員を区分するなど、館内の情報を共有した上で、緊密な連絡体制を確保します。そのため、緊急時に至急の連絡伝達を行う担当者「連絡責任者」をローテーション表等に明示します。隊長不在時には副隊長がその代理を務める、班長不在時には次席の班員が班長を務める等し、勤務状況等に応じた実践的な体制を構築します。さらに、効率的な緊急対応を行うために各館で実施している方法等については、他館でも実施できるよう情報共有を図っていく等します。閉館時においては、館内に常駐する監視警備員等から副館長等に被害状況等を報告することとし、状況に応じて財団本部に連絡し緊急連絡網により参集した職員が対応します。また、緊急用携帯電話を配布し、休日夜間でも速やかな対応が可能となる体制を構築します。

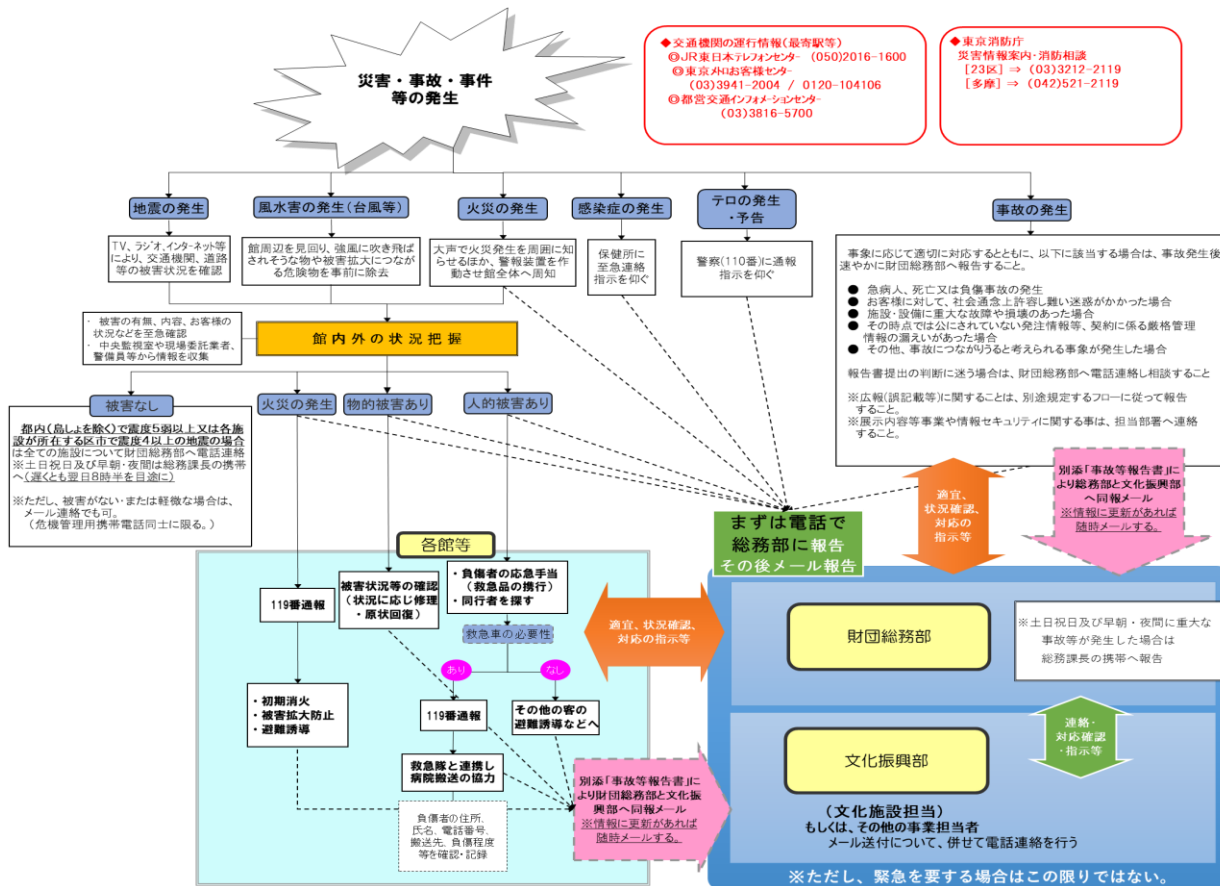
災害・事故等発生時には、正確かつ迅速な情報発信のためマスコミへの確に情報を提供します。そのため、館内の危機発生時における体制を徹底し、指示・命令系統の徹底を図ることで、情報発信の一元化を図ります。

なお、東京都政策連携団体として、不適正事案発生時には、行政改革推進部にも報告をいたします。

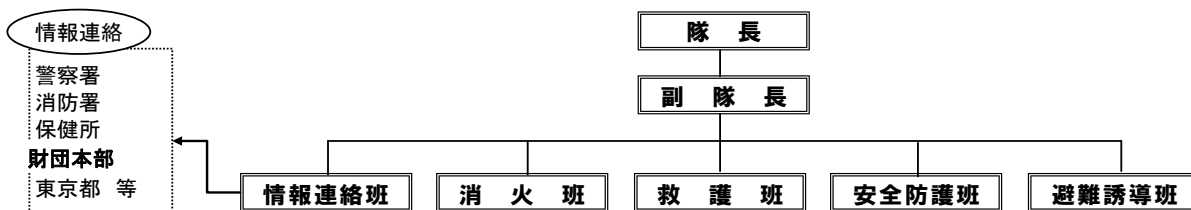
事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
-----------------	-----------------

提案課題6 [館の管理その他に関する業務] 1 館の管理について
(2) 危機管理体制の整備

(1) 災害・事故等発生時におけるフロー(イメージ)



(2) 館内の災害・事故等発生時における体制例



4. 災害発生時における都立文化施設としての役割の遂行

大規模災害発生時等には、都との協定に基づき、都立施設に求められる一時滞在施設等の役割を適切に果たし、災害備蓄品の提供や、負傷者の救護医療スペースの確保などを東京都と協議の上、実施していきます。

また、都が指定する広域ボランティア活動拠点として指定された施設については、災害発生時、広域拠点として使用スペースの提供を行うなど、関係機関等の活動に協力します。

さらに、東京都国民保護計画における大規模集客施設として、テロ等の発生に備え、危機管理の強化を日頃から行うとともに、テロ等の危機に関する事業者連絡会に参画し、関係団体や地域団体と危機情報の共有を図ります。

今後も、より安全・安心して都立文化施設を利用していただけるよう、警察・消防機関の他、関係団体や地域団体等との連携を進め、危機管理体制の万全を図ってまいります。

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団